

## マレーシアにて「地域コミュニティによる災害リスク理解に基づく防災力強化プロジェクト」を実施しました（2023/03/20 - 25）

テーマ：コミュニティ防災、マレーシア  
会場：マレーシアスランゴール州  
URL：<https://jppsedar.net.my/>

2023年3月20-25日に、JICA 草の根事業「地域コミュニティによる災害リスク理解に基づく防災力強化プロジェクト」の一環として、マレーシアのスランゴール州にて様々な活動を行いました。当研究所の泉貴子教授（国際防災戦略研究分野）がプロジェクトマネージャを務め、プロジェクトの統括を行っています。このプロジェクトは2018年6月から始まりましたが、新型コロナの拡大により、しばらくの間活動中断を余儀なくされてきました。その後、期間を約1年半延長し、昨年8月に本格的に活動を再開しました。このプロジェクトのカウンターパートとして、マレーシア工科大学、スランゴール州防災課、APM（市民防衛局）に参画いただいています。

3月21-23日には、プロジェクトの対象地域である4か所（Kapar, Ulu Klang, Batu 14, Sengai Serai）にてコミュニティによる防災活動企画ワークショップを開催しました。Kapar および Sengai Serai は洪水、また、Ulu Klang および Batu14 は地滑りに脆弱な地域です。ワークショップでは、各地域のコミュニティの代表が、今後6か月で実施する防災活動の企画について議論しました。洪水地域では、早期警報をより迅速に、明確に伝えることや、避難所への経路や場所を正確に伝えることの重要性が指摘されました。また、地滑りの地域でも洪水が原因で発生する地滑りが大半なため、洪水の早期警報の重要性、地滑りの兆候のモニタリング、住民が災害情報を入手しやすくするためのリソースセンターなどの必要性が指摘されました。今後、こうした課題を解決するための具体的対策を決め、実施していきます。

また、22日には、このプロジェクトの重要なカウンターパートである APM 本部にて、Chief Commissioner をはじめスランゴール州のトレーニング部門の責任者などと意見交換を行いました。APM は、当プロジェクトの活動のひとつである自治体やコミュニティリーダーのためのトレーニングでも重要な役割を果たし、さらに今後のコミュニティ防災の実施にも支援いただくことになっています。Chief Commissioner からは、スランゴール州のみならず、ぜひ今後も連携を深め、他州においてもプロジェクトを共同で実施したい旨を伝えられました。

さらに、24日には、JMG（マレーシア鉱物地球科学局）のスランゴール州事務所を訪問し、これまでのプロジェクトでの特に地滑り関連のデータ共有などの協力・支援に感謝を述べたところ、今後もぜひプロジェクトに広く貢献したいとの申し出をいただきました。このプロジェクトは、通常のコミュニティ防災に科学的根拠に基づくリスク理解を加え、学術や科学技術に関わる省庁との連携や参加を目指しており、JMG のような機関に参加いただくことは、プロジェクトの目標達成には不可欠です。

文責：泉貴子（国際防災戦略研究分野）  
（次頁へつづく）

